

# ぐるみ

環境にやさしく効果の高い活動を支援



## Contents

- 優良メール ～活動だより～  
優良活動事例、学校教育との連携事例
- 生き物調査  
「田んぼの植物調査」「田んぼの魚類調査」「ほ場の鳥類調査」
- 研修会「活動組織支援研修会開催」
- グリーン・ツーリズムで農地・水・環境保全向上対策を  
楽しく続けてみませんか
- 農地・水・環境保全向上対策（営農活動支援）における  
生き物調査の意義と今後の研修計画について
- 行事開催予定



2008  
No. 2

## 優良活動事例

### 絶滅危惧種シナイモツゴの保全活動

広長地域資源保全隊(宮城県大崎市鹿島台町)



近年、溜め池にブラックバスの生息が広がり、生態系が壊されつつあります。本事業活動においてブラックバスの駆除と合わせて「NPO 法人」シナイモツゴ郷の会の協力を得て生息している絶滅危惧種の「シナイモツゴ」を守り、又新たに溜め池に放流活動を実施しています。ブラックバスの駆除については釣りマニアによるマナーの悪さによるバスの放流もみられ完全な駆除が難しい状況であり、現在はバスに汚染されていない溜め池に放流活動を行っています。活動を進めている中で地域の住民はもとより地区外の人々の理解と協力が得られるに至っています。



NPO法人「シナイモツゴ郷の会」の生態系保全の講話



「シナイモツゴ郷の会」と共にシナイモツゴの放流



引網を使つてのブラックバスの捕獲

#### 将来の目標

- ブラックバスのいない溜め池を増やし、シナイモツゴの放流活動を続け生息溜め池を確保したい。
- シナイモツゴの生息溜め池の用水区域の生産された米について「シナイモツゴの米」として付加価値のある販売に結びつけたい。

### 営農体験！ビオトープ活動による都市交流

下野目ふるさと環境保全会 (宮城県加美町)

環境保全米を中心とした米作りに対する見直しとともに活動地域全体をビオトープとして捉え、都市との交流の中で営農体験やホタル生息地の自然環境保全が出来ればとの思いから活動を展開することとなりました。

構成員の本対策に対する事業意識が希薄であったため、紹介と事前説明等、他団体との連絡調整に時間を費やしました。

また、実施日が日曜、祝日に集中するため、兼業農家にとって従来の農作業にも支障を来しています。

活動に取り組むうちに集落内の連帯意識が高揚し、集落に活気があふれ、いかなる行事へも参加熱が高まったことや目をそむけていた汚い場所を率先して清掃するような意識が芽生えてきました。

現在、集落内の米作農家の大半が特別栽培以上の作付けを行い、中には有機、自然栽培等の作付けが多く見られるようになりました。将来は地域全体において安心・安全性を直接消費者又は、子供達に様々な体験を通して伝えていきたいと思ひます。



子供会育成会が主体となり「ホタルの里げんた村」予定地の水路清掃



町内外の学童を迎えて田植え体験

# 研修会

## 農地・水・環境保全向上対策 活動組織支援研修会開催

日時：平成20年8月25日(月)～平成20年8月28日(木)

場所：8月25日(月) 成田公民館(富谷町) 8月26日(火) 登米祝祭劇場(登米市)  
8月27日(水) 栗原市文化会館(栗原市) 8月28日(木) 岩沼市民会館(岩沼市)

今回の研修では、講師をNPO法人 TEAM・田援 代表理事 筒井義富氏に依頼し、活動組織、宮城県、市町関係者、土地改良区等合わせて、4日間合計で約1,400名の参加がありました。初めに本協議会事務局より体制整備構想(案)スケジュールについてと、支援交付金の適正管理について説明をした後、筒井氏による講義が行われました。受講者の皆さんは熱心にメモを取る等、本対策にかける意気込みと円滑な推進を図るため、研修会終了後も意欲的に質問する姿も見えるなど盛会のうちに今回の研修会を終了しました。

今回の研修会を活かし、スケジュールにあわせて体制整備構想(案)の作成を行いましょ！



NPO TEAM・田援 代表理事  
筒井 義富 氏

### プロフィール

筒井氏は、農地・水・環境保全向上対策の立ち上げにも関わっておられ、昨年5月に特定非営利活動法人の設立を受け、NPO法人「TEAM・田援」の代表理事となり、農村地域の住みよいまちづくりの実現を図るため、調査研究、さらにはグリーンツーリズムの研修なども実施しています。



大勢の受講者が参加し、宮城県における活動組織の本対策への意識の高さを表しています。



熱心に受講する活動組織のみなさん

### 活動組織の皆様へお願い

広報誌を発刊している組織の皆様へお願いです。

他の活動組織にも「ぐるみ」とおして、活動をご紹介するために、活動内容等が書かれた広報誌を募集いたします。

お手数ですが、**活動組織名、連絡先電話番号、広報担当者名**を記入の上、下記宛送付下さいますようお願いいたします。

送付いただいた広報誌は、事務局で全て拝見し、何件かを「ぐるみ」に「活動だより」として出来るだけ掲載させていただきます。なお、掲載の際は、事務局より掲載許可についてお電話でご確認をさせていただきますので宜しくお願いします。

〒980-0011

仙台市上杉2-2-8(土地改良会館2F) 宮城県農地・水・環境保全向上対策地域協議会事務局宛  
お問合せ先:022-263-5829 担当:千葉、瀬野尾

## 生き物調査

### 田んぼの植物調査

日時：平成20年7月17日(水曜日)～7月18日(木曜日)

内容：生き物の種類や生態の理解、生き物の調査方法等を習得することを目的とする。

場所：大崎市田尻 北小塩友人ピア集会場

講師をNPO法人 田んぼ 理事長 岩渕 成紀 氏に依頼し、2日間で市関係者、活動組織合わせて158名の参加により開催しました。研修会ではまず室内での講義のあと実際にほ場で、水田周りの植物を観察及び採取し、採取した植物を各自資料を基に調べ、最後に分かりやすく岩渕先生が採取した全ての植物について説明を行い盛会のうちに研修会の一切を終了しました。



実際にほ場で植物を採取しました。



### 田んぼの魚類調査

日時：平成20年7月30日(水曜日)

内容：生き物の種類や生態の理解、生き物の調査方法等を習得することを目的とする。

場所：大崎市田尻 研修センター「ロマン館」

講師を宮城県内水面水産試験場職員 谷合祐一 氏に依頼し、市及び町関係者、活動組織合わせて132名の参加により開催しました。研修会ではまず室内で魚類の種類及び調査方法の概要等の講義があり、その後実際にほ場で魚の調査を行いました。受講者からは「講師の分かりやすい説明により、活動組織でも調査を行いたい」という意見も出るなど、盛会のうちに研修会の一切を終了しました。



実際に土水路で魚を採取しました。



### ほ場の鳥類調査

日時：平成20年8月8日(金曜日)

内容：生き物の種類や生態の理解、生き物の調査方法等を習得することを目的とする。

場所：大崎市田尻「大貴公民館」

講師をNPO法人 田んぼ 理事長 岩渕 成紀 氏及び鈴木耕平 氏に依頼し、市関係者、活動組織合わせて111名の参加により開催しました。研修会ではまず室内での講義のあと実際にほ場で、水田周りの鳥類調査を行いました。受講者は双眼鏡や望遠鏡を使用し観察するほか、鳥の鳴き声に耳を傾けどのような鳥がいるのかを熱心に観察しました。観察中、様々な鳥の特徴について、先生が説明を行い盛会のうちに研修会の一切を終了しました。



実際にほ場に出てシラサギ等の鳥を観察しました。



## 学校教育との連携事例

### 桜岡小学校児童が水路に生息する生物調査、水路の水質調査を実施



鈴根ふるさと保全隊(宮城県登米市米山町)

日時：平成20年6月11日(水曜日)

内容：桜岡小学校の児童76名が参加して、水路に生息する生き物調査と水路等の水質調査。

この調査は、農地・水・環境保全向上対策事業を通し、学校教育との連携事業の中で、地域の将来を担う子供たちに農村環境の現状を認識してもらうとともに、本来、田んぼは、米を生産する場だけではなく、様々な生き物などが生息する場所、洪水を防止する役割があるなど農業・農村の持つ多面的機能があることなどを理解してもらいたいという目的で、鈴根ふるさと保全隊の主催により実施されたものです。

参加した児童たちは、田んぼや水路においてザリガニ、ドジョウ、シジミ、タニシなどの様々な生物を採取しながら、身近に豊かな「環境」が残っていることを再認識していました。



説明に耳を傾ける桜岡小児童のみなさん



水路に生息する生き物を採取する様子



何が取れたかな？



ザリガニなど沢山の生物が捕れました



### 六年生は水質の調査を行いました。



米どころ米山町の田んぼの水質は？

一年生から三年生まで生き物調査を行いました。



桜岡小学校の児童の皆さん大変ご苦労さまでした。



数箇所を比較調査しました

## グリーン・ツーリズムで農地・水・環境保全向上対策を楽しく続けてみませんか

農地・水・環境保全向上対策では、農地や水路など農業生産資源と地域環境資源の保全活動や環境保全型農業の実践を行っているわけですが、これらの地域資源は、都市に住む皆さんから見れば、すばらしい財産であり、この地域資源の価値に気づいた生産者の皆さんは、積極的に都市農村交流、いわゆるグリーン・ツーリズムに活用しています。

具体的には、安全な農作物を販売する直売所の設置や、郷土の料理などを提供する農家レストランの開業、相互理解を深めるための収穫等の農作業体験交流、その交流を継続する拠点としての農家民宿の開業などが進んでいます。

こうした中、最近では小学生を農山漁村にホームステイ、いわゆる民泊しながら生活体験や農作業体験をさせる国家プロジェクト、「子ども農山漁村交流プロジェクト」が展開されることになり、グリーン・ツーリズムが、ぐっと身近なものになってきました。

加美町小野田地区の上区・城内集落は、今年度から農地・水・環境保全向上対策の営農活動に取り組み始めた集落です。これまで加美町では町内の農家に分散して民泊を受け入れてきましたが、今年5月に、仙台市松陵中学校の生徒約60人を上区・城内集落内の民家19戸だけで受け入れ、2泊3日の生活体験、農作業体験を行いました。

19戸の中には非農家も含まれていますが、宿泊体験は各民家に、作業体験は農家が協力しあうことで、田植え体験、枝豆の播種、野外炊飯など幅広い体験メニューを用意することができ、帰宅時間の都合で夕食の世話が難しい場合でも、住民相互に協力しあって食事の面倒を見るなど、工夫をこらしました。

集落としては初めての取り組みのため、準備には苦労が多かったようですが、生徒達にはとても良い体験になったようで、学校に戻ってから受入民家へ感謝の手紙を送っており、集落では、今後、生徒の家族を含めた家族ぐるみの交流ができることを待ち望んでいます。

今回の民泊受入の成功には、農地・水・環境保全向上対策の活動によって強まった集落の結束力も、大きな要因と思われます。是非、事業推進の次のステップとして、グリーン・ツーリズムを考えてみてはいかがでしょうか。

県とみやぎグリーン・ツーリズム推進協議会も、アドバイザー派遣や地域ごとの研修会、情報提供や発信などでお手伝いします。



### <グリーン・ツーリズム相談窓口>

- ・大河原、仙台、北部、東部地方振興事務所 農業振興部
- ・気仙沼地方振興事務所 農林振興部
- ・宮城県農林水産部 農村振興課
- ・ホームページ:

<http://www.pref.miyagi.jp/nosonshin/nosonsinkotaisaku/gt/index.htm>

### <みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会事務局>

- ・ホームページ: <http://www.gtmiyagi.com>
- ・入会申込み方法: <http://gtmiyagi.com/gtm/downloads/form08.pdf> から申込書をダウンロードしてFAX(0224-33-4525)で送付して下さい。集落組織としての加入も歓迎します。
- ・お問い合わせ: 090-7562-4413(担当:早川)

(作成:宮城県農村振興課、協力・写真提供:大崎農業改良普及センター)

## 農地・水・環境保全向上対策(営農活動支援)における生き物調査の意義と今後の研修計画について

### 1 「営農活動支援」で生き物調査を実施する目的

平成17年に国から出された「食料・農業・農村基本計画」では、農業が本来有する※自然循環機能を発揮することにより、農業生産の全体の在り方を環境保全に貢献する営みに転換していくこととしています。

また国は、農林水産業は多様な生物が生息生育する上で重要な役割を果たしてきたとし、生物多様性保全を重視した農林水産業を強力に推進するため、「農林水産省生物多様性戦略」を平成19年に策定しました。

このような中、生産者と消費者を結び付ける手段として生き物を活用している一例として、兵庫県豊岡市におけるコウノトリをシンボルとした農産物のブランド認定が挙げられ、農林水産省生物多様性戦略検討会でもこのような手法を有効であるとし、「生きもの認証マーク」の活用を提言しています。

そこで、当協議会及び県では農地・水・環境保全向上対策(営農活動支援)(以下、「営農活動支援」)を実施するに当たり、生き物調査の実施を要件の一つとし、「営農活動支援」に取り組む活動組織を対象に、昨年度から適宜生き物調査研修を開催してきました。

### 2 生き物調査研修を通じて目指す農業者像

では、この生き物調査研修を受講した後、活動組織としてはどのように変わっていくのが望ましいのでしょうか？

当協議会では、次のようにステップアップしていくことが理想と考えています。

- 1 地域のどこ(水田や畑等)にどんな生き物がいるかを理解する。
- ↓
- 2 「営農活動支援」における環境負荷低減などの取り組みをすすめるに従って生き物の生息状況(生息場所、種類や数)がどのように変化するかを理解する。
- ↓
- 3 生き物を中心とした地域環境がどうなっているのかを地域の内外に説明できる。



### 3 「営農活動支援」で生き物調査をする際のポイント

さて、「営農活動支援」で生き物調査を実施する際、どのような点に注意したら良いのでしょうか？

ポイントとしては、次の点などが挙げられます。

- 1 活動組織の中で生き物調査担当者を決める。
- 2 調査日時や場所などを決め、そこに生息するその生き物の種類や数などを記録する。
- 3 調査結果(生き物の数や種類、生息場所など)を地域の地図に記入し、その分布などについて組織内で検討する。
- 4 このような調査を毎年継続し、環境負荷低減などの取り組みなどような関係があるのかについて、専門家なども交えて組織内で検討する。
- 5 これら一連の活動を、活動組織のほかの構成員や地域住民などに伝える。



### 4 今後の生き物調査研修計画

本年は、6月から8月にかけて、田んぼの生き物、植物、魚類、留鳥の調査研修を実施してきましたが、今後は次のような調査研修を実施する予定です(詳細について決まり次第「営農活動支援」に取り組む活動組織に対して通知します)。

- ・冬鳥(渡り鳥)の調査研修(11月下旬、栗原市)
- ・生き物マップづくり研修(日時、場所については未定)

※自然循環機能とは農業生産活動が自然界における生物を介在する物質の循環に依存し、かつ、これを促進する機能をいう。

これまで開催した生き物調査研修会で紹介した調査用紙については、当協議会のホームページ(<http://www.nmk-miyagi.org/>)に掲載されていますので、適宜御活用下さい。

# 行事開催予定

2008/11/26

第5回生き物調査研修会（渡り鳥）

2008/11～12 ごろ予定

専門技術研修（簡易補修）

2008/11～12 ごろ予定

中間指導実施

2009/1/17

宮城県農地・水・環境保全向上対策地域協議会 シンポジウム

宮城県 農地・水・環境保全向上対策地域協議会のホームページをご覧ください！

アドレスは <http://www.nmk-miyagi.org>

です。「宮城県 農地・水・環境保全」で検索していただいてもご覧になれます。



※研修会などの資料等もダウンロード  
できます。

## 編集後記

本対策も来年度で3年目を迎えることになりました。活動組織支援研修会では、スケジュールにあわせた体制整備構想(案)の作成について熱心に受講していただきました。

さて、広報も今回で2回目となり、活動組織の事例などの掲載をはじめました。そこで、より良い広報誌の作成のため、各活動組織様で作成している広報誌を下記の事務局宛に送付していただけないでしょうか。限られたページであるため全てでは紹介できませんが、抜粋して紹介したいと思います。宜しくお願いします。



【問い合わせ先】

宮城県農地・水・環境保全向上対策地域協議会事務局

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目2番8号

TEL: 022-263-5829

FAX: 022-263-5796

ホームページ : <http://www.nmk-miyagi.org>

e-mail : [info@nmk-miyagi.org](mailto:info@nmk-miyagi.org)